

オーデオ B 基本的な取り扱いと ファーストフィット



2018.02

フィッティングを行う前に・・・

～オーデオ B-R の場合～

オーデオ B-R をフィッティングする前に、フル充電にしておきます。

充電中のオーデオ B-R



充電中：ゆっくり点滅

充電完了：点灯

充電不可：2回点滅

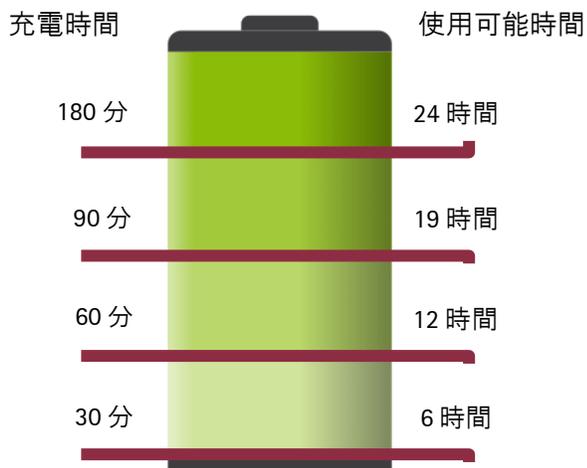


※ 点滅していない場合、または2回点滅している場合、補聴器が正しく充電されていない可能性があります。

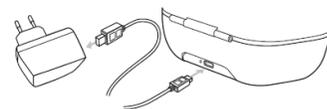
マイクロ USB ケーブルを差した時の
チャージャーケース裏



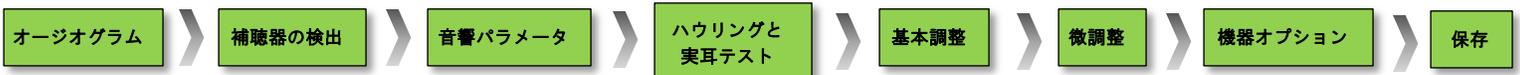
充電時間と使用可能時間の目安



※ 充電は製品出荷時に
同梱された AC アダプタ
+ マイクロ USB ケーブル
をお使いください



フィッティング ファーストフィットの流れ

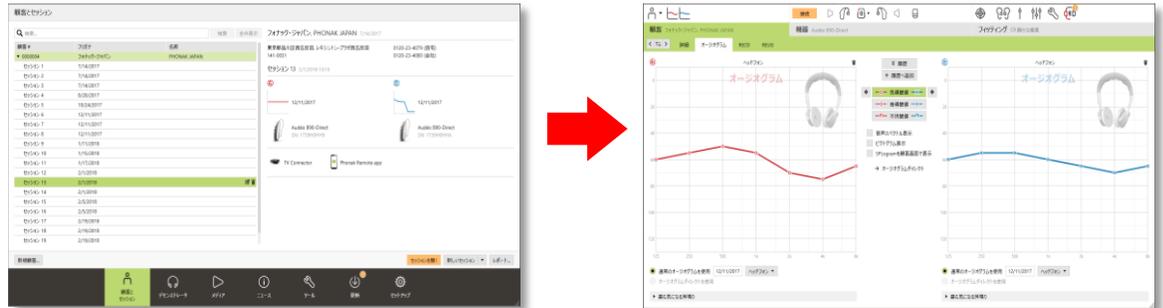


1. オーディオグラムの入力

Phonak Target を起動し、新しいセッションを開きます。（必要に応じて顧客情報を新規作成します）
オーディオグラム画面でオーディオグラムを入力します。

Phonak Target 5.2.1 ファイル ヘルプ

(2018年2月現在)



※ 画像は Standalone で表示した場合

2. 補聴器の検出準備

a) アイキューブ II を使用する

(対象器種：オーディオ B-R、ボレロ B-PR、オーディオ B-ダイレクトを除く通信機能付きフォナック補聴器)

※ オーディオ B-R の場合、充電器から取り外したオーディオ B-R の電源を長押しし、電源をオンにします。
(充電中は電源オフ状態)



電源オン：1 回点滅



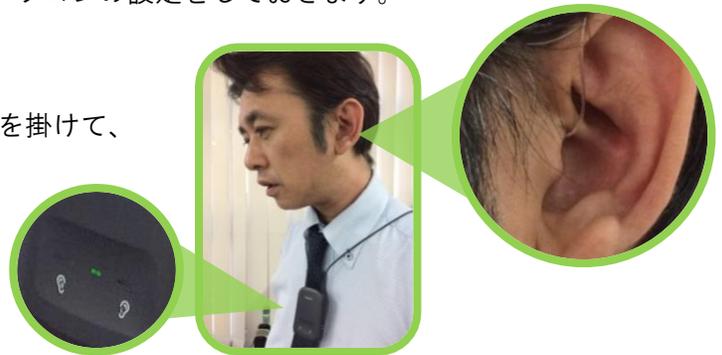
電源オフ：2 回点滅



アイキューブ II を使用した補聴器の接続は、①か②の方法で行います。

※ 補聴器を接続する前に、アイキューブ II とパソコンの設定をしておきます。

- ① 補聴器を耳に装着し、首からアイキューブ II を掛けて、補聴器を検出する。（右記）



- ② アイキューブ II を机など水平な場所に置き、ネックループの中に補聴器をセットして補聴器を検出する。（右記）



b) ノアリンク ワイヤレスを使用する
(対象器種：オーディオ B-ダイレクトのみ)



※ 補聴器を接続する前に、ノアリンク ワイヤレスとパソコンの設定をしておきます。

ノアリンク ワイヤレスを使用した補聴器の接続は、次の作業を実行してから行います。

- オーディオ B-ダイレクトの電池ホルダーを開閉します。
(ペアリングモードが約3分間続きます)



c) ノアリンクまたはハイプロを使用する
(対象器種：オーディオ B-ダイレクト、オーディオ B-R、ボレロ B-PR 以外)

※ 補聴器を接続する前に、ノアリンクまたはハイプロとパソコンの設定をしておきます。

ノアリンクまたはハイプロを使用した補聴器の接続は、次の作業を実行してから行います。

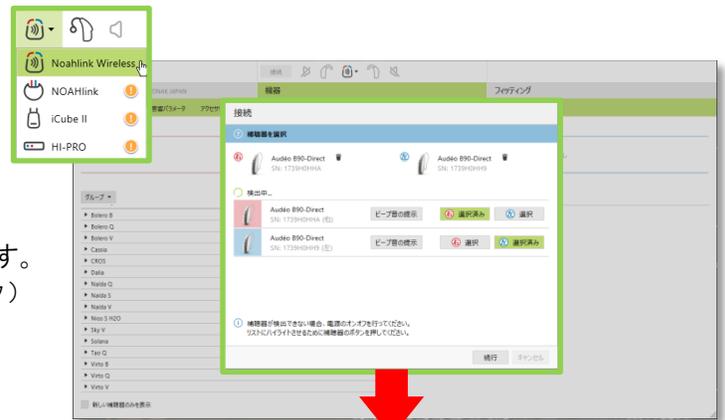
- 器種に合わせてフォナック専用のフィッティングケーブルを使用します。



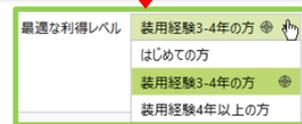
補聴器の検出

使用するインターフェースが合致しているか確認し、**接続** をクリックします。ワイヤレス接続の場合、初めに左右を選択します。
(次回以降、左右を間違わないように注意します)

※ 接続機器の接続状態を確認しておくことをお勧めします。
(セットアップ > フィッティング機器 > 該当機器 > チェック)



補聴器を初めて接続する場合は、接続後に装着経験が表示されます。該当する年数をプルダウンから選択します。



音響パラメータの確認

補聴器が接続されると、「機器」タブの音響パラメータの画面に自動的に移動します。同時に、レシーバチェックも行われます。自動確認された内容が正しいか確認します。

※ カプラを変更する場合、表示されたレシーバと実際に使用しているレシーバが合致しているか **チェック** を押して確認します。
(**橙**...未実施、**グレー**...実施済)



アクセサリ

補聴器とグルーピング（同期）する場合、フォナックのUSB-ミニUSBケーブルにアクセサリを差しします。
自動認識され「機器」のタブ上部に表示されます。
「機器」のタブのアクセサリの画面から確認できます。

※ 使用するケーブルは「NO DATA」と書いたシールが貼っていないものを使用します。



ハウリングと実耳テストの実施

「フィッティング」タブのハウリングと実耳テストの画面に移動し、該当する側の **両耳で開始** をクリックしてテストを行います。（静かな場所で実施します）

※ このテストを実施することで、ファーストフィットの正確性およびハウリング抑制の安定性が向上します。



テストを行うことが困難な場合、予め、画面下にあるホイッスルブロックを“オン”にします。

基本調整

「フィッティング」タブの基本調整にある、初期フィッティングの画面に移動し、選択された利得レベルで問題がないか確認します。（選択した装用経験に基づき、自動選択されます）
プルダウン▼から変更することも可能です。



微調整

「フィッティング」タブの微調整にある利得 & MPOの画面に移動し、設定プログラムを確認します。

※ オートマッチプログラム「**A** オートセンス OS」の下に並んだ複数プログラムは、これら全て含めて1プログラムです。
「**プログラムマネージャ**」をクリックすると、プログラムの詳細内容を確認することができます。

プログラムは、オートマッチプログラム・追加プログラム・ストリーミングプログラムの3つに大きく分かります。

オーディオ B-ダイレクトのサンプル（プログラム追加前）

- オートマッチプログラム：オートセンス OS（スタートアップ）
- ストリーミングプログラム：テレビコネクター+マイク Bluetooth 電話



<ステップ UP ポイント>

プログラムを変更する場合、「プログラムマネージャ」をクリックして内容を変更します。

プログラム横の「+」をクリックするか、画面左下の「+ プログラムを追加...」をクリックしてプログラムを追加することが可能です。



↓ プログラムマネージャを開く



↓ プログラム追加後・・・

右図サンプル (プログラム追加前)

- スタートアップ： オートセンス OS
- 追加①： 電話 (マイク利用)
- スリーミング： テレビコネクター+マイク
Bluetooth 電話

プログラム名の左側に、追加した順に①から番号が割り当てられます。



機器オプション

「フィッティング」タブの機器オプションにある、プログラムスイッチの画面に移動し、割り当てたい機能をプルダウン▼から選択します。

(右図はプログラムスイッチのみの補聴器)



補聴器から提示されるお知らせ音をデモする場合、お知らせ音と警告音の画面に移動し、各項目にある🎵をクリックし、その中からデモしたい音を選択します。

例えば、「一般的なアラート」と書かれた文言の横にある🎵をクリックして“低電圧”を選択すると、補聴器検出時であれば補聴器から音が提示されます。



オーディオ B-ダイレクトのみ Bluetooth&ストリーミングの画面が表示されます。

電話を受ける耳を選択します。（初期設定：右）



保存して終了

画面右上にある **セッションを閉じる** をクリックし、補聴器、データベース、必要に応じてアクセサリに を付けて **【保存】** をクリックします。

※ フィットングケーブルを使って調整している場合、「保存に成功しました」と表示されるまでは、フィッティングケーブルは抜かないでください。



フィッティングを行った後は・・・

～オーディオ B-R の場合～

再度補聴器を充電する際、左右を間違えないようにチャージャーケースに戻します。収納されているドライカプセルの色が変わっていないか時々確認してください。（橙色がうすい橙色なってきたら交換時期です）



～オーディオ B-ダイレクトの場合～

補聴器と携帯電話をペアリングする際、電池ホルダーを開け閉めしてから Bluetooth 画面で検索するようにします。電池ホルダーを開け閉めすることで Bluetooth のペアリングモードになります。（3 ページ目参照）テレビコネクターおよびリモートアプリとペアリングする際も同じです。